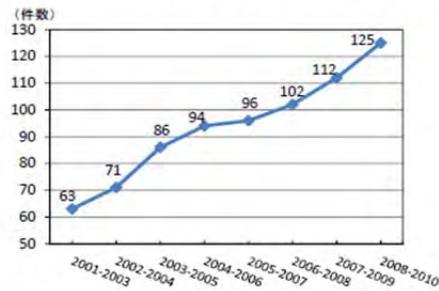


- 国際標準化に係る各国動向と日本の現状

- 従来から積極的な活動を進める欧州、米国に加え、韓国、中国の企業がグローバル市場でシェアを急速に拡大するとともに、標準化活動への取組みを急速に強化。
- 一方、日本の活動は、欧米主要国等と比較して低調。

日本からの国際標準提案件数推移 (ISO・IEC 合計)



国際幹事引受数の国別内訳 (2010年末)



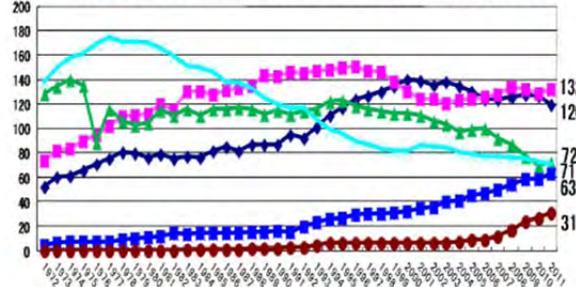
ISO:国際標準化機構 (International Organization for Standardization)
IEC:国際電気標準会議 (International Electrotechnical Commission)

IECへの国際標準提案件数

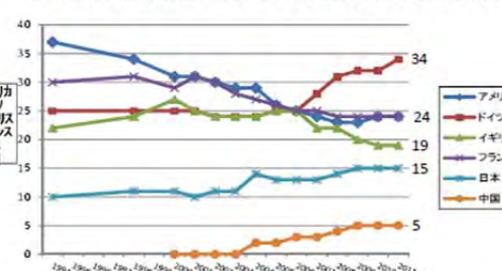
| 国名 | 国際標準提案件数 |
|------|----------------|
| 韓国 | 20 → 25 |
| 中国 | 11 → 23 |
| アメリカ | 8 → 18 |
| 日本 | 22 → 16 |

(2008.10 - 2009.9) → (2009.10 - 2010.9)
(IEC事務局長講演資料より)

ISO主要国(米、独、英、仏)と日本、中国の幹事国引受数の推移



IEC主要国(米、独、英、仏)と日本、中国の幹事国引受数の推移



日本の ISO/IEC への寄与状況

(出典) 経産省 情報通信審議会 情報通信政策部会 情報通信分野における標準化政策検討委員会 (第 5 回)

“経済産業省における国際標準化への取組について” 2011 年 10 月 (http://www.soumu.go.jp/main_content/000134879.pdf)

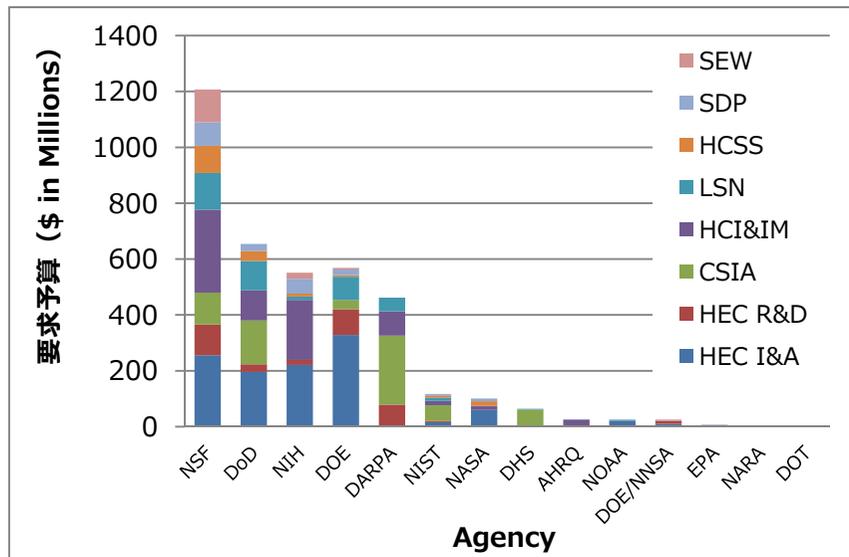
1.3. 諸外国の ICT 研究開発戦略

1.3.1. 米国

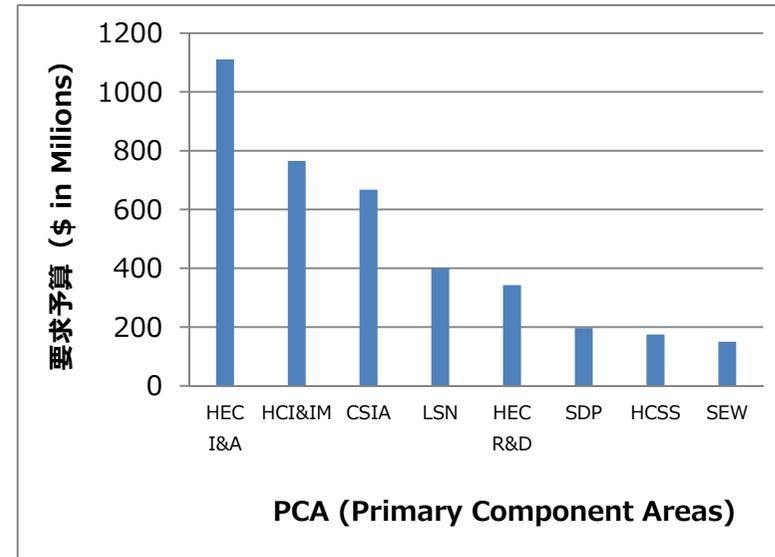
- NSTC（国家科学技術委員会）が、NITRD 小委員会（Networking and Information Technology Research and Development）の調整を踏まえ、NITRD プログラムを策定している。NITRD プログラムは省庁横断的に情報通信分野の研究開発を推進するプログラム。実質的には各省庁の情報通信分野の研究を取りまとめたものである。
- 予算額は、2013 年度要求予算は 38.079 億ドルであり、前年度比 1.8% 増となっている。特に、セキュリティと情報保証（CSIA）の増加率が最も高く、2012 年から 13% 増、2011 年からは 50% 増、となっている。
- 分野は、8 つのプログラムエリア PCA(Program Component Areas)と、各機関が連携すべき優先課題を扱う 4 つのグループ SSG(Senior Steering Group) とから構成される。

NITRD におけるプログラムエリア PCA とグループ

| PCA(Program Component Areas) | SSG(Senior Steering Group) |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● ハイエンドコンピュータのインフラとアプリケーション (HEC&IA)● ハイエンドコンピュータの研究開発 (HEC R&D)● 社会・経済・雇用との連携および人材開発 (SEW)● 人間とコンピュータのインタラクションと情報管理 (HCI&IM)● 大規模ネットワーク (LSN)● 高信頼なソフトウェアとシステム (HCSS)● ソフトウェアの設計と生産性 (SDP)● セキュリティと情報保証 (CSIA) | <ul style="list-style-type: none">● サイバーセキュリティと情報保証 R&D SSG (2008 年設立)● ワイヤレススペクトラル R&D SSG (2010 年設立)● ヘルス情報技術 R&D SSG (2010 年設立)● ビッグデータ R&D SSG (2011 年設立) |



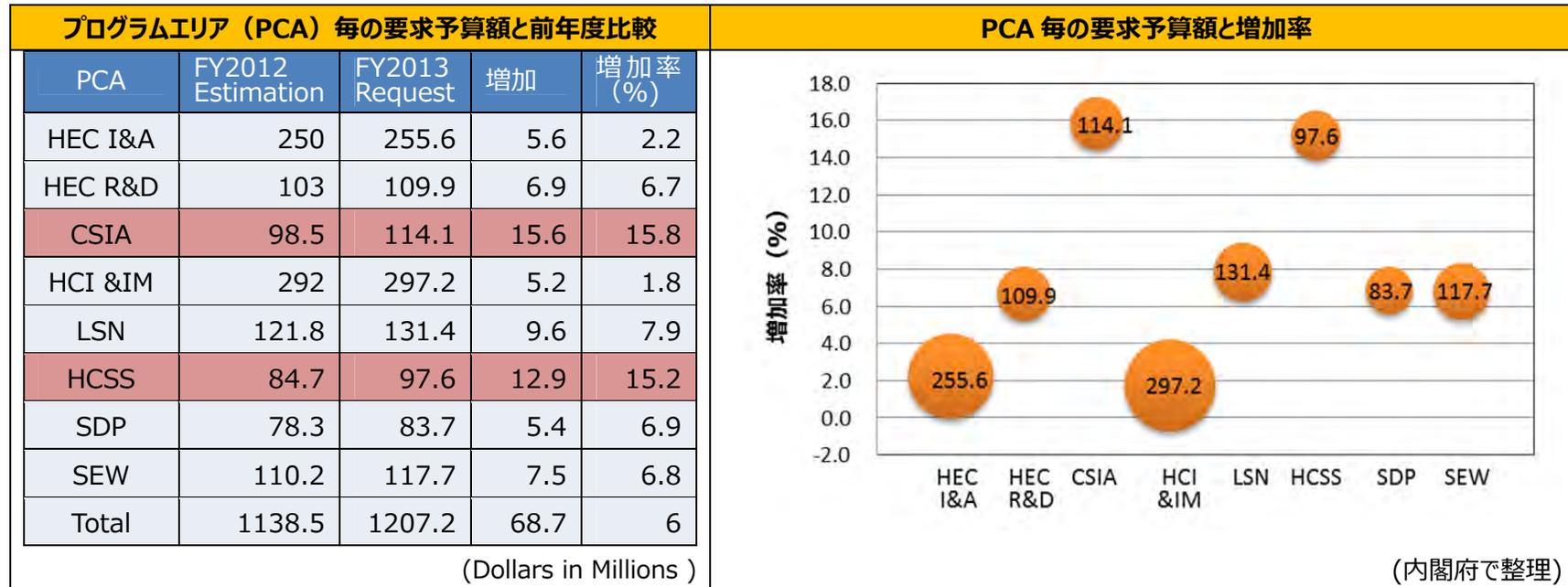
機関毎の要求予算額と内訳



プログラムエリア (PCA) 毎の要求予算額

(出典) NITRD, "Supplement to the President's Budget for Fiscal Year 2013," February 15, 2012

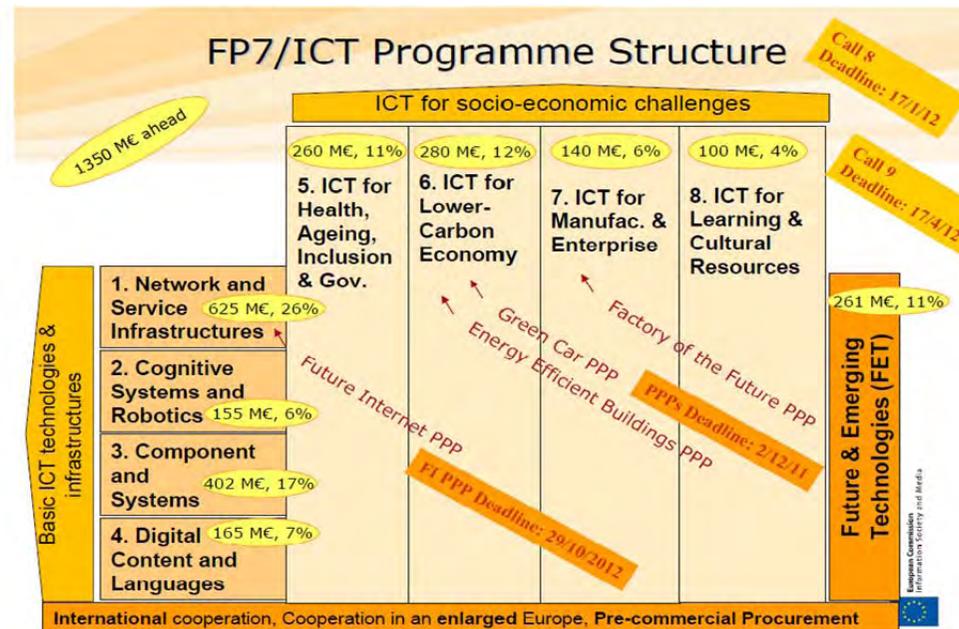
FY2013 年度 NSF 予算要求 詳細



NSF-Wide Investments, Networking and Information Technology R&D,
http://www.nsf.gov/about/budget/fy2012/pdf/36_fy2012.pdf

1.3.2. 欧州

- 情報通信分野の研究開発は、第7次フレームワークプログラム (FP7) で推進している。(2007-2013の7年間)
- 予算内訳は、共同研究支援 COOPERATION 324.1 億€の内、情報通信技術 ICT は予算の約 30%程度である。
- 分野は、4つの技術課題 (全予算の内 56%) と社会経済上の重点4分野 (全予算の内 33%) のマトリクス状に分割して推進している。

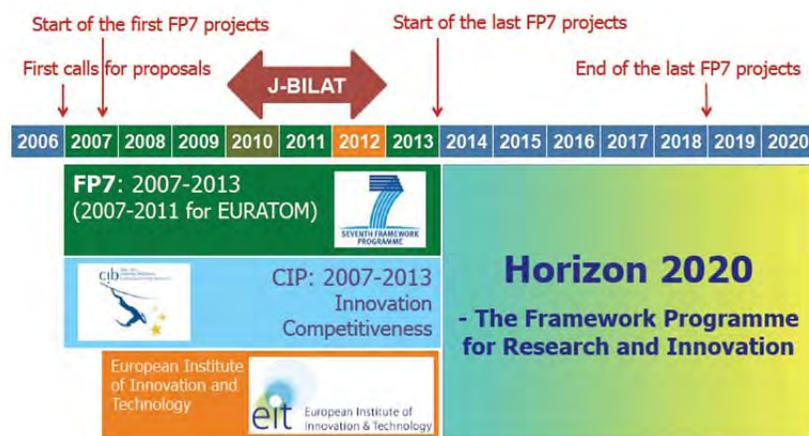


FP7 のプログラム構成

(出典) Bernard Barani et al., "ICT and EU Innovation Support," Mobile World Congress, February 7, 2011

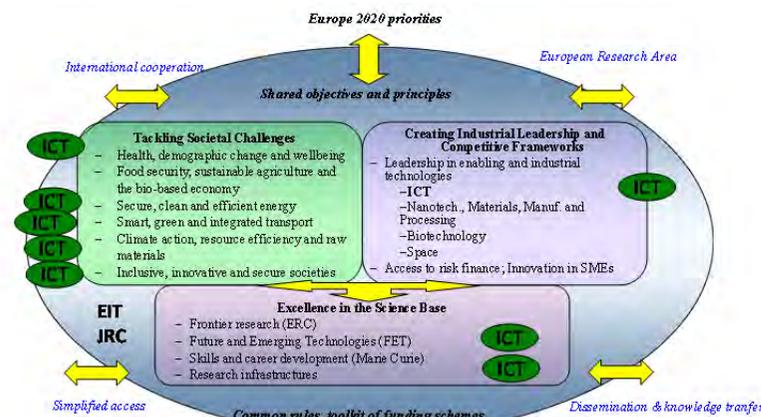
- 一方、2014 年から 2020 年については、予算額 800 億€規模の新たなファンディングフレームワークである「Horizon 2020」の下、研究開発を推進する予定である。Horizon 2020 は、現在三つのプログラムで提供されている EU の研究・イノベーション関連のファンディングを、単一の一貫性を持ったフレキシブルなフレームワークに統合する。
 - 現在の 3 つのプログラム
 - ◇ 研究と技術開発のためのフレームワークプログラム (Framework Programme for Research and Technological Development(FP))
 - ◇ 競争力・イノベーションフレームワークプログラム(Competitiveness and Innovation Framework Programme (CIP))

◇ 欧州イノベーション・技術機構(European Institute of Innovation and Technology(EIT))



3 ファundingフレームワークの Horizon2020 への統合

(出典) Toshiyasu ICHIOKA, "From FP7 to HORIZON2020", J-BILAT 2012 Seminar No.1 EU/Japan Innovation Strategy and Cooperation in R&D Tokyo, 23rd April 2012, (http://www.j-bilat.eu/documents/seminar/as_1/presentation_as1_ti.pdf)



Horizon2020 の目的と構造

(出典) Ljubljana, "Future Networks Research in FP7 and H2020," April 2012

1.3.3. 韓国

- 韓国政府は2009年9月に5大IT戦略を発表し、ITと造船、エネルギー、自動車など10種類の産業のIT分野との融合を推進(自動車・造船・医療・繊維・機械・航空・建設・国防・エネルギー・ロボット)している。
- 韓国最大の研究支援専門機関である韓国研究財団(NRF)が、2.9兆ウォン(2011年時点、日本円で総額2030億円、2009年は2.6兆ウォンで韓国政府研究開発予算の21.1%に相当)を配分。